



平成 30 年 6 月 4 日

各 位

会 社 名 株式会社 トップカルチャー
 代表者名 代表取締役社長 清水 秀雄
 (コード番号 7640・東証 第1部)
 問合せ先 取締役 管理部長 遠海 武則
 T E L 025-232-0008
<http://www.topculture.co.jp>

業績予想の修正及び繰延税金資産の取り崩し
 並びに配当予想の修正（無配）に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 12 月 7 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたこと及び繰延税金資産の取り崩しを行いましたことをお知らせいたします。

また、平成 29 年 12 月 7 日に公表いたしました平成 30 年 10 月期の配当予想を修正し、平成 30 年 10 月期の中間配当及び期末配当を行わないことを平成 30 年 6 月 4 日付取締役会書面決議にて決定いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成 30 年 10 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 4 月 30 日）
 （単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	17,100	250	240	150	12.41
今回修正予想 (B)	16,390	△448	△474	△902	△74.72
増減額 (B-A)	△710	△698	△714	△1,052	
増減率 (%)	△4.2	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 29 年 10 月期第 2 四半期)	16,402	381	360	227	18.84

平成 30 年 10 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 10 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	33,000	430	380	240	18.21
今回修正予想 (B)	35,901	△350	△416	△867	△0.07
増減額 (B-A)	2,901	△780	△796	△1,107	
増減率 (%)	8.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 29 年 10 月期)	31,257	307	257	△2,456	△203.24

平成 30 年 10 月期第 2 四半期（累計）個別業績予想数値の修正（平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 4 月 30 日）
（単位：百万円）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益（円）
前回発表予想（A）	16,700	240	150	12.41
今回修正予想（B）	15,970	△455	△883	△73.09
増減額（B-A）	△730	△695	△1,033	
増減率（%）	△4.4	－	－	
（ご参考）前期実績 （平成 29 年 10 月期第 2 四半期）	15,965	362	230	19.09

平成 30 年 10 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 10 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益（円）
前回発表予想（A）	32,200	370	230	19.03
今回修正予想（B）	35,070	△431	△879	△0.07
増減額（B-A）	2,870	△801	△1,109	
増減率（%）	8.9	－	－	
（ご参考）前期実績 （平成 29 年 10 月期）	30,397	249	△2,460	△203.64

修正の理由

平成 30 年 10 月期第 2 四半期連結累計期間において、当社グループの主軸である蔦屋書店事業では、主力部門であります書籍やレンタルを中心に売上高が計画よりも下回る結果となりました。レンタル部門の減少をカバーするため主力の書籍や特撰雑貨・文具の商品力を強化しましたが、来店客数が伸び悩んだ結果、売上高全体で下回りました。また、レンタルの仕入原価の増加により粗利率が悪化する一方、コスト面の見直しや運営の効率化にも努めてまいりましたが、営業利益、経常利益とも計画を下回る結果となりました。

また、下記の「2. 繰延税金資産の取り崩しについて」のとおり繰延税金資産の取り崩しにより、税金費用が 415 百万円増加したことから、親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益も当初の予想を下回る見込みであります。

通期におきましては、課題であります来店客数を伸ばすために販促力と商品提案力を更に強化してまいります。株式会社 TSUTAYA より譲受けした店舗も売上高増加に寄与する見込みですが、一方でレンタルの仕入原価がより増加することが見込まれ、第 2 四半期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益の減少をカバーするまでに至らず当初計画を下回る見込みであります。以上の状況を踏まえ、業績予想を修正いたします。

2. 繰延税金資産の取り崩しについて

当社は、当期及び今後の業績見通し等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を検討いたしました結果、平成 30 年 10 月期第 2 四半期連結累計期間において繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額を 415 百万円計上する見込みであります。

3. 配当予想の修正（無配）について

（単位：円 銭）

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
前回予想 (平成 29 年 12 月 7 日発表)	—	7.50	—	7.50	15.00
今回修正予想	—	—	—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00	—		
前期実績 (平成 29 年 10 月期)	—	7.50	—	7.50	15.00

修正の理由

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要事項と認識しており、財務面の健全性を維持しつつ、安定的な配当を継続していくことを会社の基本方針としております。

しかしながら、上記「1. 業績予想の修正について」のとおり、平成 30 年 10 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想及び通期連結業績予想におきまして赤字の見通しであるため、誠に遺憾ながら本日（平成 30 年 6 月 4 日）開催の取締役会において、平成 30 年 10 月期の中間配当及び期末配当を無配とすることを決定いたしました。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、引き続きご支援を賜われますようお願い申し上げます。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、今後様々な要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

以 上